



ものを大切にする心

次長 目崎 淳

外に出るのが好きです。中休みや昼休みは必ずと言っていい程、どちらかのグラウンドに繰り出します。子どもたちが遊んでいる様子を見守ったり、時には一緒に遊んだりすることもあります。私と同じように、遊んでいる様子を見守っている先生もいれば、子どもたちと一緒にグラウンドを走り回っている先生もいます。先生も子どもたちに負けていけないのでしょう。

コロナ禍における子どもたちの遊び方は、大方の予想どおり、それ以前と同様ではありません。子どもたちそれぞれが創意工夫して遊んでいる姿を多く目にします。例えば、鬼ごっこやドロケイ(ケイドロとも言うようです)は、お友だちを直接タッチするのではなく、「休み時間用ドッジビー」を利用してタッチする、というようなことをしています。ですから、「休み時間用ドッジビー」は、どの学年の子どもたちにとっても人気遊具なのです。



【赤】

【黄】

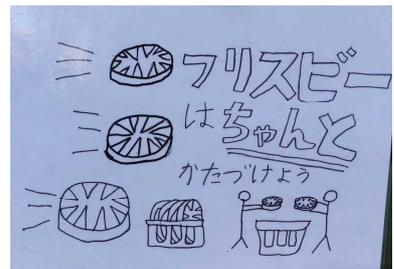
【青】

「休み時間用ドッジビー」は、上の画像のように遊ぶ場所ごとに色を分けています。どの学年の子ども、「休み時間用ドッジビー」を使って遊べるようにという工夫から生まれたようです。確かに、これなら特定の学年だけがドッジビーを占有する(例えば、早くグラウンドに出てきた子から好きなだけ持って行く)というようなことは起こらないのです。

しかしどうでしょう。上の画像のように、箱に入っているドッジビーの数は同じではありません。本来であれば【青】のように、8枚

ずつ入っていたと思われるのです。そして【赤】が極端に少なくなっているのです。ですから、【赤】の割り当て場所で遊ぶ学年の子は、毎日毎回のように「先生、赤いドッジビーはもうないんですか?」とたずねてきます。箱を見れば一目瞭然なのですが、「授業が時間どおりに終わって真っ直ぐに外に出てきたはずなのに、どうしても箱の中は空っぽなのか?」と言わんばかりの質問です。使った後、きちんと箱に戻さなかったために、次第に数が減ってしまったのだと考えられます。

児童会活動の一つである「体育委員会」が、右のようなポップを制作し、箱の側面に貼ってくれたようです。児童会活動は「異年齢の児童同士



で協力し、学校生活の充実と向上を図るための諸問題の解決に向けて、(中略)協力して運営することに自主的、実践的に取り組む」ことを目標としています。休み時間が終わると、「休み時間用ドッジビー」を使って遊んでいた子どもたちは、次の授業に間に合うように箱に返し、教室に帰っていきます。中には、授業開始時刻が迫っているにも関わらず、乱雑に返されている様子に気づいて整理整頓してくれる子もいます。こういう姿を見ると、「自分たちが使ったものは自分たちで片付ける」「みんなが使うものを大切に使う」そして「よりよい学校生活が送れるように課題を解決しようとしている」という、言わば当たり前のことが当たり前にできていることに、子どもたちの成長を改めて感じとることができそうです。

鎌倉女子大学では、建学の精神をととても大切にしています。その、3つの心のうちの一つに『人・物・時を大切にすること』というものがあります。そして次のように続きます。『物のありがたさを思い、後始末を心がけ、物を大切に使用します。』善い行いは、習慣化することによって、はじめて身につくものだと思います。